

白鷹町の産業・観光の拠点として どりいむ農園 産直の会 開店10周年記念大交流会

12月13日、どりいむ農園 産直の会 開店10周年記念大交流会が町下公民館で行われました。

平成17年4月にオープンしたどりいむ農園の生産者は、現在約240名。新鮮な農産物をはじめ、手づくりのお菓子など農産加工品も増えました。また、お盆やゴールデンウィークはもちろんのこと、今では観光ルートにも組み込まれるようになったことで、多くの方に足を運んでもらえるようになりました。

紺野伊久雄社長は「昨年の国道287号の通行止めは影響が大きく、改めて国道287号は348号とともに大事な道路だと感じた」「今年は売り上げも順調に伸びている」とし、「今年のCM大賞ではわが社やスタッフも紹介され、“SHIRATAKA RED”も大いに盛り上がっていくことを期待し、我々も積極的に取り組んでいきたい」とあいさつされました。



また、佐藤町長は「最初はビニールハウスから始まったどりいむ農園は、今では大事な産業、観光の拠点となっている」「町は、“日本の紅（あか）をつくる町”としてのイメージ戦略とミニトマトを代表とする“SHIRATAKA RED”を販売戦略とし、力を入れ経済の活性化を図りたい」と話しました。

約130名が参加した席上は活気に満ちあふれ、今年の山形ふるさとCM大賞作品が上映されると、大きな拍手がわきました。



▲10年前のどりいむ農園オープン時。我先にと多くの人が押し寄せた

地域のために出来る事を

白鷹高等専修学校から白光園へ収益金寄附

12月17日、白鷹高等専修学校（沼澤政幸校長）から白光園へ収益金18,102円が寄附されました。

この収益金は、11月14日と15日の二日間、白鷹高等専修学校で開催された文化祭のフリーマーケット及びバザーの売り上げの一部で、生徒たちの話し合いにより「白光園の利用者のために使ってもらいたい」との思いで、寄附されることが決定しました。寄附金を受け取った白光園の児玉裕継園長は「大変

ありがたい」「利用者のために大事に使わせていただきたい」と感謝の言葉を述べられました。このほかにも白鷹高等専修学校では、東日本大震災義援金の寄附や、陽光学園やこぶしの家でのボランティア活動といった慈善活動に積極的に取り組んでいます。

全国一の技能を目指して

第53回技能五輪全国大会

12月4日から7日にかけて、青年技能者の技能レベルの日本一を競う大会である「技能五輪全国大会」が幕張メッセ（千葉市）で開催され、白鷹高等専修学校研究生の竹田静香さんが山形県代表として出場しました。

竹田さんが出場した洋裁部門には山形県から7名が出場。竹田さんは最年少ながらも、積み上げてきた経験を活かし、全国大会という大舞台で健闘されました。惜しくも目標であった入賞は逃しましたが、また、今年山形県で開催される全国大会を目指して頑張りたいと話してくれました。

